



つばさ

多摩市立聖ヶ丘小学校
特別支援教室 つばさ
令和7年 5月 12日
つばさだより 第2号

「季節だけが君を変える」・・・そんな4月。

新学期が始まって約3週間が過ぎました。この3週間は子供たちにとっても大きな「変化」の時間であったと思います。その子なりに200パーセント、一生懸命「新生活」にアジャストして日々を過ごしてきた子供たちにまずは「がんばってるね!」「よくやれてるよね」と声をかけていただければと思います（もちろん、大人自身にもです）。そして同時に言えるのは、このドタバタの3週間の期間の中でも確実に子供たちが成長をしているということです。前学年から比べての雰囲気、顔の表情、教室での所作等々。この4月という新しい学校生活が否が応でも成長の後押しをしていると感じます。眩しいきせつです。

つばさ教室での学習が始まりました・会話を通して整理していくこと

個別、小集団での指導が始まりました。まずは進級しての出来事や状況を少しずつ話していきましました。新しい先生。友達。クラスの雰囲気。「どきどき」「ワクワク」「緊張」「不安」「楽しい」等々。気持ちの言葉を意識しながらやりとりをしていきました。「新しい先生はまあ、優しいかな!」「まだ知っている友達が少ないから緊張する」「高学年は忙しいよ」いろいろな声が聞こえてきます。こうした会話を通して自分の内面が少しずつ整理されていく感覚につなげていきたいと思っています。

小集団指導では「グループ開き」の指導となりました。このグループでどんなことを学んでいくのか、学年や集団の成長度合いに応じて問いかけて行きました。個々にいろんな課題もありますが、小集団の仲間がせっかく集まって学ぶので、自分の中での学ぶ「何か」をそれぞれに理解できるよう指導していきます。

4月中旬から5月にかけて学級紹介をしています。

つばさ教室とはどんなところか、どのような事を学んでいるのかについて朝の学級活動の時間を使って訪問ミニ授業を行いました。人には「得意」と「苦手」があり、それ自体は悪いことではな。ただ、自分の「得意」と「苦手」について自分で整理するのが難しいとき、ヒントが欲しいときにつばさ教室と一緒に考えることができる。「相談」して学べる場所であることを伝えました。そして、もちろんつばさ教室は全校に開かれているので学校生活で何かあれば、だれでも相談できる場所であることも伝えました。聖ヶ丘小の中に自然な形で「つばさ教室」がある。そんな安心できる場所があることを、これからも子供たちに話していきたいと思っています。

